

学 院 長 様

|   |   |        |
|---|---|--------|
| 所 | 属 | 応用音楽学科 |
| 職 | 名 | 教授     |
| 氏 | 名 | 松本佳久子  |

## 在 外 研 修 報 告 書

## ① 研修目的

「再犯防止の推進に関する法律」が2006年に施行され、障害の特性に即した矯正教育が喫緊の課題となっている。報告者は、これまでに社会的認知障害に焦点を当て、コミュニケーションの促進と再犯防止を目指す音楽療法として「音楽ナラティブ・アプローチ（大切な音楽の聴取と語り）」を展開してきた。このことにより、社会的絆への気づきや洞察の深まりが観察されたが、欧米諸国の矯正処遇においては、ナラティブに音楽を適用したアプローチによる実践はまだ少ない。そこで、在外研修を通じて生涯教育におけるライフストーリーの先進的な実践研究機関との共同により、本アプローチを導入し、日仏の比較検討を行うことを目的とした。

## ② 研修概要

## 1. 調査研究

トゥール大学の研究グループ（Education-Ethique-Santé:EES 教育・倫理・保健）にポスドク研究員として所属し下記の研究・実践等を行った。

## 1) 矯正施設におけるインタビュー調査の実施

パリ郊外にある2つの矯正施設(サン・ドニ刑務所少年区分/ポシュビル少年刑務所)における受刑者10名に「大切な音楽」に関するインタビューを行い、人生におけるライフイベントとの関連について計量テキスト分析により検討した。

## 2) 地域における実践活動の実践および調査

パリ郊外の刑務所（フローリ・メロジス男子刑務所・女子刑務所）において、2018年から開始して以来、毎年導入している音楽ワークショップの一環として受刑者による混声合唱団”アン・クール En Chœur”と若手のプロ音楽家によるオーケストラが共演するコンサートの場に赴いた。その機会に、指導者 Morgan Billet 氏から、刑務所内での音楽活動の意義について学んだ。

## 3) 移民家族へのアートセラピーの実施

移民センター（CADA）のトゥール支所において音楽ワークショップをアートセラピストとソーシャルワーカーとともに実施した。参加家族はのべ5家族約20名に対して、歌唱や楽器活動を導入した。

## 2. 学会・研究会への参加・報告

1) 談話研究会出席：オルレアン大学のカチャ・ブルーク教授を中心として、フランス国内外の対話分析研究者が集まる定例研究会に出席した。移民の受け入れ機関や精神障害者施設、チャットによる心理カウンセリングなど臨床現場における貴重な事例をもとにコーパスによる談話分析の方法を検討した。

2) ライフストーリー学術研究会報告：エルヴェ・ブルトン教授（トゥール大学）がホストとなり、国際ライフストーリー成人教育・伝記的教育研究学会(ASIHVIF)の創始者であるガストン・ピノー名誉教授（ケベック大学モントリオール分校/トゥール大学）をゲストに迎え、ライフストーリーの研究会を実施した。臨床心理学分野からは、立命館大学総合心理学科森岡正芳教授、鹿児島大学教育学研究科廣瀬幸市教授、また社会教育分野からは東北大学松本大教授、末本誠湊川女子大学学長をゲストとして、トゥール大学 EES 研究グループの教員とともに、オンラインで一同に介し、研究報告と討論を行った。その中で、アイデンティティ確立など再犯・再非行への抑止力となる社会的絆に関するカテゴリー化を行い、対応分析を通じて、各語りの語り（ナラティブ）の特徴を楽曲の歌詞ジャンル別に検討した結果について報告した。

## 3. 本学における研究・教育への活用の展望

フランスにおけるライフストーリーの先駆的かつ豊富な研究をはじめ、生涯教育における実績から成る多くの知見は、心理療法の理論的基盤を持つ音楽療法や、生涯教育につながる音楽療法のプログラム構築と開発を促進すると考える。本学応用音楽学科の担当専門科目において、再犯防止を目指す音楽療法に関するゼミ研究や心理療法に関わる授業展開を深めるなど、実践研究と直結した教育の充実につなげていくことが可能となる。さらに、総合大学であるトゥール大学と長期的な連携を深めることにより、音楽療法や音楽活用専修の応用音楽学科の学生の海外研修の場として今後も確保できると考える。